

82 ^{67}Ga -citrateシンチグラフィーにおいて
肺野にビマン性集積が見られた症例の検討

九州大学 放射線科

○森田一徳, 鷺海良彦, 仲山 親,

鴨井逸馬, 一矢有一, 松浦啓一

はじめに

^{67}Ga -citrateによる腫瘍シンチグラフィーは悪性腫瘍を陽性描画できるため、近年ますますさかんに行われるようになった。しかし ^{67}Ga は生理的にも肝、骨、腸管などに集積して陽性像を描出するため部位によっては判定に困難を来すことが多い。胸部疾患に関しては比較的、生理的な集積が少ないため、臨床に広く利用されている。我々は各種疾患において腫瘍シンチグラフィーを施行してきたがその中で肺野にビマン性に集積が見られた症例が約20例あったので今回はそれらの症例について胸部X線写真などと合わせて検討を行った。

対象及び検査方法

昭和46年11月より昭和52年6月までに当科で施行した腫瘍シンチグラフィーで肺野にビマン性に集積が見られた約20例。

検査方法は ^{67}Ga -citrate 3mCi を静注し、72時間後に胸部を前後方向より撮像した。

使用機器は島津製スキャナー (SCC-230SA 及び SCC-150S)、東芝製カメラ (GCA102)、及び Nuclear Chicago 社製 (PHO/Gamma III)

結果

肺野にビマン性に ^{67}Ga の集積がみられた症例の疾患名の内わけは原発性及び転移性肺癌、肺結核、サルコイドーシス、肺線維症、悪性リンパ腫、真菌症多発性筋炎などであった。肺癌においては肺胞上皮癌や癌性リンパ管炎において集積が見られた。癌性リンパ管炎においては早期発見にも有用であった。

肺結核においては粟粒結核の活動期のものに、又サルコイドーシスにおいては肺野型のものに見られ、治療するにつれて集積は著明に低下し経過観察にも有用であった。若干例においては集積の機序が不明であったがその中で気管支造影やリンパ管造影のあとで集積が見られたものが数例ありこれらの検査の関与が推測される。尚数例はX線像で検討したが原因は不明であった。

83 肝腫瘍における ^{67}Ga -Citrateシンチグラム
の有用性

廣大第1内科

○中西敏夫 国政徹明 川上広育

三好秋馬

廣大 放射線部

山下征紀 佐々木正博

限局性肝疾患とくに肝腫瘍における質的診断向上の目的で、 ^{67}Ga -citrateによる肝シンチグラムを実施し検討した。

対象および方法、 ^{198}Au colloid ならびに $^{99\text{m}}\text{Tc}$ フチン酸による肝シンチの結果、SOLを認めるものおよびSOLの疑いのある66症例を対象とした。その内分けは肝細胞癌29例、胆管癌3例、転移性肝癌29例、肝のう腫5例、肝のう瘍2例、肝硬変15例である。

^{67}Ga -citrateシンチグラムは、 ^{67}Ga -citrate 1.5~2mCi 静注後、48~72時間後に5インチスキャナーにて実施した。判定は、 ^{67}Ga の摂取の程度により(-), (+), (±), (++)の4段階に分類した。

成績 肝細胞癌では、(±)4例(13.8%), (++)9例(31.0%), (++)16例であり、胆管癌では、(±)1例(33.3%), (++)2例(66.7%)であり、転移性肝癌では、(-)3例(13.6%), (±)5例(22.7%), (++)13例(59.1%), (++)1例(4.5%)であり、肝のう腫では(-)5例(100%), 肝のう瘍では、(++)2例(100%), 肝硬変では、(-)15例(100%)であった。

肝細胞癌における血中A F Pと ^{67}Ga の摂取の程度の比較では、A F P 200 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以上の例18例では、(++)5例(27.8%), (++)10例(55.6%)であり、一方A F P 200 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以下の11例では、(++)4例(36.3%), (++)6例(54.5%)と ^{67}Ga の摂取の程度と血中A F P値の間に差を認めなかった。

結論 限局性肝疾患における ^{67}Ga の摂取の程度は、肝細胞癌で(++)~(++), 胆管癌、転移性肝癌では、(±)~(++)肝のう腫では(-), 肝のう瘍では、(++)であった。